

contents

東日本大震災復興支援プロジェクト……………	1	「ありのままのわたしを生きる」ために⑦……………	9
性教育の歴史を尋ねる③……………	7	今月のブックガイド……………	10
北丸雄二のニューヨークレポート⑦……………	8	JASEインフォメーション……………	11

◆東日本大震災復興支援プロジェクト

思春期の若者たちの
“心の健康と人生の夢：生きる希望再構築”

——ピアキャラバン・プロジェクトを実施して——

日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会代表 高村 寿子

1. プロジェクト紹介

東日本大震災の被災3県において思春期の若者たちが抱えている将来に対する不安感、人生設計の挫折、性や心に関する様々な不安や悩みに対する対策が急務となっている。日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会に所属する思春期ピアカウンセラー（以下、ピアカウンセラー）は同じ世代を生活している仲間として、また被災県のピアカウンセラーは同じ境遇に置かれている仲間として、何か行動を起こしたいという声が高まってきていた。

そこで被災県内外のピアカウンセラーが協働し、被災した思春期の若者に寄り添いながら、彼らの人生の夢：生きる希望を共感・共有し、その実現に向かっていく力を取り戻すピアキャラバン・プロジェクト活動を実施した。

キャラバンプロジェクトは、以下の実施内容と達成すべき目標で開始された。

- ①被災3県のピア支援者を招聘し、エンパワメントを高め、災害支援の研修を行う。
- ②福島県及び岩手県でピアカウンセラー養成講座を開催する。
- ③ピアカウンセラースキルアップ研修を開催し、ピアカウンセラー自身のエンパワメントを高めるとともに、災害支援の基礎を学び、ピア実践に活かせるようにする。
- ④福島県で被災した思春期の若者が通う中学・高校へ出向いて、ピアエデュケーション（仲間教育）及びピアカウンセリング（仲間相談）を行う。

今回はこのプロセスの中で、“人生の夢：生きる希望再構築”をテーマに取り組んだピアエデュケーションについて紹介する。

2. 実施事前準備

まず、被災地のピアカウンセラーとピア活動を支える支援者がパワーレスになっている現状を打破する必要があったので、平成12年7月と9月にエンパワメントを高めることと災害支援活動、特に心のケアに関する考え方と方法を学ぶ“ピア支援者応援セミナー（ポスター1）”、“ピアっ子応援セミナー（ポスター2）”を開催した。なお、隣県で復興支援ピア活動を希望する栃木県ピア支援者、ピアカウンセラーが応援部隊として参加することによって、活動の弾みがついた。

セミナー受講感想として、ピア支援者は「被災した時のことを話して、自分も頑張ってきたんだなって思っ、涙が出そうになった」「ピア活動を継続させる気持ちがまた出てきた」「沢山の力をいただき、ピア支援者として私自身も頑張れそう」等の感想が寄せられた。

ピアカウンセラーは、「皆で真剣に話し合っ、今この時間、この場所、この気持ちが被災地のパワーになっていると思った。物や技術も必要だけれど、ピアのハートも大きな力になると思った」。「3.11では様々な思いにかられていた。しかし被災地ではそれ以上に辛い出来事に対する様々な感情が起こり、それを上手く表出できない、表出する相手

【住友商事 東日本再生ユースチャレンジ・プログラム2012】助成事業
被災地のピアに関わる人々をエンパワメントする
ピア支援者応援セミナー

日 平成24年 7月29日(日)
時 10:00~17:00 (9:30開場)

会 ウィズ・もとまち 4階 大会議室
場 (福島市男女共同参画センター)
〒960-8035 福島市本町2-6

事前申込
入場無料

プログラム

- 10:10~
「ピア活動に期待されること」
日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会
代表 高村寿子先生
- 13:00~
「被災の経過と現状（仮）」
ふくしま心のケアセンター（講師交渉中）
- 14:45~
ピアセッション
「被災地に住む私たち」

※プログラムは一部変更となることがあります。

【申込締切日】平成24年7月20日（金） ※申込方法は裏面をご覧ください。

主催：日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1 自治医科大学地域医療学センター 公衆衛生学部門
電話番号：0285-58-7338 FAX番号：0285-44-7217
共催：ふくしま恩恵期サポーターの会

ポスター1 ピア支援者応援セミナー

【住友商事 東日本再生ユースチャレンジ・プログラム2012】助成事業
被災地のピアっ子をエンパワメントする
ピアっ子応援セミナー

日時：平成24年9月8日（土）
10:00~16:00 (9:30会場)

会場：ウィズ・もとまち 4F大会議室
(福島市男女共同参画センター)
〒960-8035 福島市本町2-6

10:10~
「ピア活動に期待されること」 日本ピア研 代表 高村寿子さん

13:00~
（仮）被災地における心のケア ふくしま心のケアセンター
臨床心理士 横田由紀子さん

14:45~
ピアセッション 「ピアカフェって、何？」

【申込締切日】平成24年8月31日（金）

主催：日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1 自治医科大学地域医療学センター 公衆衛生学部門

ポスター2 ピアっ子応援セミナー

がないという状況を改めて感じた。一人一人が持っている気持ちを出出できる場の提供、一人ではないということ伝えること、感情を受け入れ、寄り添っていくことを大切にしていきたい」という感想が記されていた。

3 “人生の夢：生きる希望再構築” ピアエデュケーションの実践

被災した子どもたちの心に寄り添うことの重要性を痛感したピアカウンセラーは、ピア支援者の支援の下で主体的に心のケア学習会（スキルアップ研修）を開催し、被災後2年の月日が経った現段階の子どもたちに寄り添うためのトレーニングを受け、I市に住んでいるまたは親元を離れ避難している中高生を対象に、ピアエデュケーション及びピアカウンセリングを実施した。

具体的には平成25年3月、I市に避難している県立F高校1年生24名に対しピアカウンセラー20名、ピア支援者5名、同じく県立T高校1・2年生37名に対しピアカウンセラー21名、ピア支援者3名、またI市立Y中学校2年生32名に対しピアカウンセラー24名、ピア支援者4名で実施した。

(1) ピアエデュケーション実施テーマとプログラム
高校生への実施テーマは、「Thinking Future」、



写真1 私の夢！ 貴方の夢！ 素敵だね！（T高校）



写真2 相手を大切に、そして自分の気持ちも大切に…
（T高校）

実施プログラムは資料1、実施状況は写真1、2、中学生への実施テーマは、「Canvas ～自分だけの絵を～」、実施プログラムは資料2、実施状況は写真3、4のとおりである。

(2) ピアカウンセラーの実施前・実施中・実施後の感想

1) プログラム実施前の合意事項

中高生の生活再建という視点を“人生の夢：生きる希望の再構築”と捉え、ピアエデュケーションの基軸にエンカウンター“ライフライン：人生設計”を取り入れた。その理由は「被災地の子どもと言っても自分たちと変わりなく、夢を持って生活している子がほとんどであると思うので、特別扱いするのではなく、その年の発達課題が達成できるようにかわっていくことが必要と感じたから」「苦しいことがあっても乗り越える力を皆は持っているし、周りの

人々との支え合いによって前に進んでいくことができるよとメッセージを伝えたいから」とのことであった。

また、栃木県から参加したいわき出身のピアカウンセラーは、「私はいわき出身で、3.11をそれなりに乗り越えてきたと思っているが、一度県外に出て外から地元に支援をしたいと思っていた。被災地ピアがあると聞いて少しでも地元貢献したい、いわきの現状を知りつつ、心に負った傷に寄り添いたいと思ったから」と述べた。

ピアカウンセラーが同世代だからこそ共感・共有できる中高生の気持ちを尊重し、「特別扱いについて嫌がっていると思うので、声かけ、進行に気をつけながらも、行動は自然に行うことが大切で、まずは楽しい時間になるよう留意する」「変に相手を被災者扱いせずに接する。こちらから踏み込み過ぎない話し方。あちらから話してくれることを待って、いつでも受け入れる体制を整えていく」「楽しく過ごすことを第一の目標とし、帰りにはハイタッチをして見送る」などを大切に寄り添うことを全員で合意して臨んだ。

2) 実施中感じたこと

「中高生の様子は栃木や被災前に福島で行っているピアエデュケーションとあまり変わらないように感じられたが、中には将来したいことが浮かびにくかったり、親と離れて暮らしていることで寂しさが違う方向へ行っていると感じられるなどやはり引くかかるところはあった。寄り添う私たちも心の傷をえぐらないように注意しながら寄り添えたと思う」と述べた。

3) 実施後の振り返り

実施してみて、「震災が中高生の夢への障害となっているのではと思っていたが、しっかりと自分の夢について考えることができていた。それはピアカウンセラーの人数に余裕があり、一人一人にきちんと寄り添うことができていたので、その結果ライフラインもよく書けていた」「ライフライン等の作成を通じて自分の未来について考えるよい機会になったのではないかと。被災しながらも、自分の将来について考えるきっかけを提供することができたのではないかと」を捉えていた。

さらに、「ライフラインは栃木の（5ページへ続く）

資料1 ピア in T 高校プログラムタイムテーブル

対象：T高校1年生8人（男4、女4）、2年生29人（男8、女21）計37人

担当：ふくしま思春期ピアカウンセラー

GP（グループピア）：栃木思春期ピアカウンセラー、いわき思春期ピアカウンセラー

テーマ：Thinking Future

〈目的〉

- ・夢を考えることで、自分自身のやりたいことに気付くきっかけをつくる。周りの人の夢を聞き、様々な考えがあることを知る。
- ・今の自分を大切に行動することによって、未来の夢に近づく力が自分にあることに気付く。
- ・周りの存在を大切にする方法を知る

項目	時間 (分)	内容	具体的な内容・方法	目的
挨拶 自己紹介	3	ピアの紹介 司会の自己紹介	・各グループごとに自己紹介をする。 ・司会の自己紹介をする。	
ラポール	10	ジェスチャーゲーム	・お題を一番前の人に伝えて、それを後ろの人に伝えてもらう	・緊張をほぐして、話しやすい雰囲気を作る ・ピアっ子と仲良くなる
テーマ発表	1	テーマ発表 グランドルール発表	・テーマ：Thinking Future ・発表後グランドルール説明	
夢	3	説明	・司会が説明してから、GP（グループピア）は画用紙を配る。 司会例：彼女との仲直り・臨床心理士	・自分の夢は何なのか考えてもらう ・他の人の夢を聞き、いろんな夢があることを知る
	15	用紙に記入	・自分の夢について考える ・画用紙にクレヨンで自由に夢を描いてもらう	
	15	グループシェア	・グループで書いたことを発表してもらう	
	3	全体シェア (インタビュー)	「書いてみてどう思った？」 「他の人の発表を聞いてどう思った？」	・自分の夢に対し、行動していくことで未来のなりたい自分に近づくことに気付く、その力が自分にあることに気付く ・他の人のすべきことを聞き、自分のすべきことにもつなげる
	2	説明	・自分で考えた夢のために必要なことを考える。	
	5	記入	・決意表明用紙に記入し、班内で共有	
	8	グループシェア	・グループで書いたことを発表してもらう	
	3	全体シェア	「どうがんばっていいと思った？」 「どんなことをしたい？」 「どんなふうにしようと思った？」	
ネゴシエイト	3	劇	・司会二人で悪い例を見せる。(デートDV)	・相手を傷つけずに自分の気持ちを伝えることを考える ・相手との関係を大切に ・自分の気持ちを大切に ・3つのポイントを使うことで、相手を傷つけずに自分の意思を伝える方法を知ってもらう
	8	グループシェア	・どうやったら改善できるのかを考える。	
	3	全体シェア	「どうしたらいいと思った？」 「グループではどんな意見が出た？」	
	5	劇	・よい例を見せ、3つのポイントを発表する。	
まとめ	3	まとめ	・司会「小さな目標の積み重ね→大きな夢をかなえる」	・1つの目標を叶えることが自分の成功につながることを感じてもらう。自分自身を大切に、ひとつひとつを乗り越えていくことで自分の目指している未来へのつながりがある
感想	5	感想用紙記入		
ピアカフェ	15	ピアっ子との自由時間		

ピア支援者4名：ふくしま思春期サポーターの会／日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会

資料2 Y2 中学校 プログラムタイムテーブル

担当：栃木思春期ピアカウンセラー

グループピア：福島ピアカウンセラー、いわきピアカウンセラー

テーマ：Canvas ～自分だけの絵を～

〈目的〉

- (1) 自分自身を知ることは、周りの人と接することで少しずつ理解していくことができる。そして、人と関わることで、自分の存在も相手（周り）の存在も大切であることに気づくきっかけをつくる。
- (2) 過去、現在、未来の自分について改めて見つめてみて、一人一人がかけがえのない大切な存在であること、自分を大切に思うことと同時に、人生の中で出会う人を同じように大切に思えるようになってほしい。

主内容	時間（分）	具体的内容・方法	目的
挨拶 自己紹介	5	・ピアの紹介 ・ピアっ子自己紹介	・ピアっ子を知ってもらう ・緊張をほぐして、話しやすい雰囲気を作る ・ピアっ子と仲良くなる
色いろいろ	15	・色いろいろ	・自分の気付いていない、新たな自分を発見するきっかけを作る ・改めて相手の長所を知る ・自尊心を高める
ライフライン Gシェアリング	30	説明・書く・発表〔各10分〕 ・ピアっ子のライフラインを例として示す ・みんなに自分のライフラインを書いてもらう ・グループ内でそれぞれライフラインを発表する	・自身の人生を考えることで、自分自身を見つめるきっかけを作る ・過去、現在、未来について考え、どれも大切な自分であることを知る ・みんなのライフラインを見て、自分とは違う人生があることを知る ・ライフラインを大切にすることは自分を守ることにつながることに気付く
アンドロギュノス	15	・アンドロギュノスの神話（プラトンの饗宴の中から）の紹介 ・インタビューを通してシェアリング	・人を好きになることは自然なことだと知ってもらう ・自分たちは不安定であるからこそ、誰かを求めるのは自然なことだと知ってもらう
好きな人が できたら	5	・好きな人ができたり付き合ったりしたら何がしたいかをグループで話し合ってもらおう ・なぜそう考えたかをインタビューを通してシェアリング	・人の考えが自分と同じとは限らないことを知る ・お互いを尊重し合える関係を築くきっかけを作る
大切なもの	15	・好きなものを思い浮かべてもらう ・その形容詞を3つ思い浮かべてもらう ・形容詞を記載してもらったら、私を主語にして読んでもらう	・自分自身が大切にしているものを再確認する ・「そうありたい」と思っている自分を受け入れ大切にしていく
ピアカフェ	20	・楽しみながら交流を深める ・今日やってきたことを振り返る ・感想	・お菓子を食べながら交流会をする ・今日やってきたことを振り返る ・楽しんでもらう ・ピアカウンセリングの機会を設ける（個別ピアカウンセリング） ・感想

ピア支援者4名：いわき思春期サポーターの会／日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会

中高生と同じところで書きすすめられなかった。しかし、書き進めるように声かけや話を聞くことを丁寧にするれば書くことができた。実施している中で次第に集中して書くことができ、発表の時にグループメンバーに近づくなどの様子があり、よい雰囲気の中でできた」「皆、心に何らかの傷を負っているは

ずなのに明るくどこにでもいる高校生と変わらなかった。表情が明るかったので、そのうち言葉や話題の選び方を忘れてしまいそうだった」「寄り添うことはとても素敵なことであった。中高生が自ら話してくれたことがとてもうれしく、発表して拍手された時の笑顔がとても素敵だった」「終了後も笑顔で



写真3 ねえ、聞いてくれる、私のライフライン (Y2 中学校)



写真4 これからこんな人生を送りたい… (Y2 中学校)

ピアカウンセラーと話している様子が随所で見かけられた」と述べていた。

4) 中高生の受講後の感想

受講した中高生の感想は、「夢に関する話を話すのが難しかった」と答えた生徒も若干見受けられたが、ほとんどの生徒が「お互いがそれぞれの夢を持っていて、その夢に向かって今何を頑張っているのかを知ることができた。改めて自分の夢を絵で表すことにより、より一層その夢に近づきたいという気持ちが強くなった」「皆の夢を聞いてそれぞれ実現に向けて頑張っていることがあるんだと思った。私も進路実現に向けて頑張っていきたいと改めて思った」「今日2時間やってとても楽しかった。普段話すこともできない将来の夢とか素直に話すことができた」「今日は短い時間だったけど、自分の夢について考えたり、人間関係について考えたり、友達と一緒に話し合ったりすることができて学ぶこともあったし、楽しい時間を過ごすことができてよか

った。またこのような機会があればいいなと思ったし、今日学んだことをこれからの生活に生かしていきたい」と述べていた。

5) 教員の反応

中高生の笑顔で人生の夢：生きる希望を語る生徒たちを見て、エデュケーション後の学校の先生方の感想は「こんなに子どもたちの笑顔を見たのは初めて」と肯定的に捉えており、次の機会を期待していた。

これらのことを統合すると、①同世代の若者同志だからこそ被災地の中高生の心に寄り添いながら、彼らの心の健康と生きる希望を取り戻し、生き生きと日々の生活を駆り立てることに繋がった。②ピアカウンセラーやピア支援者自身に、被災前と同様のピアを展開できるきっかけづくりができ、生活再建支援に繋がったと考える。

4 今後の課題

ピアエデュケーション実施後。特に高校2校の先生方との反省会で、「親元を離れて避難していることからくる寂しさゆえに、性行動にはしる生徒が出てきている」「妊娠や性感染症が心配である。次回はそこを重要視した性教育やピアカウンセリングをやってほしい」という要望が出された。

また、ピアカウンセラーからも「自尊感情が低いと感じたので、自分を大切にすること、それは心も身体も大切にすることだと伝えたい」「セクシュアリティ：性について知識や自己決定力が乏しいと感じたので、アンドロギュノス（性の対象選択）、好きな人ができたら、妊娠、避妊、STI等正しい知識の提供と共に自己決定力を育てるネゴシエイトスキル（交渉術）をトレーニングし、自分と同様に相手の将来も大切に付き合っていくことの大切さ伝えたい」「自尊感情を回復させるエンカウンターをもっとたくさん行ってから、ピアカフェや性の問題（セクシュアリティ）のピアエデュケーションをしっかりとやりたい」「継続的に各地の学校などの施設でピア支援活動を行っていききたい」との意見が出された。改めてプロジェクトを再吟味し、取り組んでいきたいと考えている。

※本活動は「住友商事 東日本再生ユースチャレンジプログラム 2012」の活動・研究助成を受けて実施した。

性教育の歴史を尋ねる

戦後・純潔教育編

茂木輝順

第3回 文部省社会教育局通牒「純潔教育の実施について」

もてぎ てるのり
女子栄養大学大学院栄養学
研究科保健学専攻博士後期
課程修了、博士（保健学）

前回述べた1946（昭和21）年11月14日の次官会議によって決定された「私娼の取締並びに発生の防止及び保護対策」（以下「次官会議決定」）にもとづき、翌年の1月6日に文部省社会局長名で都道府県知事に「純潔教育の実施について」（以下「実施について」）が通牒されます。ちなみに、1958年に売春防止法が施行されるまで存在していた赤線地帯（売春を目的とする特殊飲食店の集まっていた地域）も、「次官会議決定」の風俗対策によって整備へとつながっており⁽¹⁾、つまり、戦後の純潔教育も赤線地帯も同じルーツを持っているということです。

「次官会議決定」から「実施について」が通牒されるまでの文部省内での経過については、斉藤の論文⁽²⁾で明らかにされていますが、本稿でも触れると…。「次官会議決定」からおおよそ1カ月後の1946年12月23日に、長里⁽³⁾によると「全国社会教育課長会議」、二宮⁽⁴⁾によると「社会教育の所管課長会議が総理官邸で」開催され、「実施について」が論議されたとみられます。そして、同月の27日と31日に、文部省社会教育局関係者がCIE（民間情報教育局…GHQ幕僚部の部局の一つで文化政策や教育政策等を担当）のAdult Education OfficerであるJohn M. Nelsonと会合を持ち、31日に“Education Division had no objection to proposed note”（訳＝CIEは「実施について」とその通牒に関して何ら異議はない）と承認を得ています⁽⁵⁾。

このような経過を経て、全国へ通牒された「実施について」は、「私娼の防止取締り等につき先般十一月十四日の次官会議によつて別紙要綱の如く決定を見たが右要綱の中純潔教育の実施を中心目標とする二、の（3）（注；子女の教育指導）及び（4）（注；文化活動の助成）については左記事項御留意の上各地の特殊事情に應ずる具体策を立て、これを強力に実行せられるように通牒する。」という前書きで始まり、続いて、「子女の教育指導」についての留意点が6点、「文化活動の助成」についての留意点が4点あげられています。

これら留意点の中には「接客婦の組合」に関する言及もあり、この「実施について」が、私娼の発生防止や保護対策の一環として位置づけられていることが再確認できます。が、それだけではなく、例えば、「文化活動の助成」についての留意点では、「出版物、映画等の推しよ、批判を活潑にすると共に、徒らに低調卑俗なものや、性的好奇心を刺戟するものに対して、子女育成上より自主的、民主的な批判が行われるようにすること。」と、（当時の）メディアへの対策を観点としたものもみられます。この頃、戦時中の言論規制が解除されたことによって、さまざまな雑誌の創刊が相次いでいましたが、その中には、この数年後にピークを迎えるカストリ雑誌（エロ・グロを中心とした娯楽雑誌）のような雑誌群もあり、こういった出版物の氾濫への対応も純潔教育の一環として考えられていたといえます。さらに、文部省は、戦後混乱期の経済的困窮や戦災孤児（浮浪児）問題を背景とした青少年の犯罪増加から、1946年10月7日に文部次官名で「青少年不良化防止について」を各都道府県宛に通牒していますが、「実施について」でも「いわゆる家庭教育に於いては単に子女の不良不善の行為を取締るといふ面にとどまることなく、むしろ子女自身の自主的な啓発進歩を助けるといふ方向に重点をおく（後略）」という留意点も述べられていることから「青少年不良化防止」という観点でも、純潔教育への期待があったことがうかがえます。

【注】

（1）奥田暁子「GHQの性政策—性病管理か禁欲政策か」『占領と性』インパクト出版会 2007年 p.30

（2）斉藤光「『純潔教育施策』 目的の微妙な拡張—純潔教育委員会開催以前の社会教育局官僚の発言から」『京都精華大学紀要』第41号 2012年

（3）長里清『少年少女の純潔教育』学芸図書出版社 1951年 p.36

（4）二宮徳馬「純潔教育の意義と問題点」『第1回全国純潔教育研究大会記録』大日本女子社会教育会 1971年 p.21

（5）Proposed Mombusho note to Prefectural Governors and Organizations engaged in Social Education concerning 〈Wholesome Sex Education〉. 1946年12月31日、CIE（A）00702

男の子に向けた10代の妊娠問題

米国の15歳～19歳の女の子たちに生まれた赤ちゃんは2011年で約33万人でした。同じ年齢層の女性人口1000人につきこれは新生児31.3人に当たります。これは米史上最も低い率で、同48人だった2000年からは35%もの減少、前年からでも8%の減少です。年々減少傾向にはあったのですが、とくに15歳～17歳の減少が今回は前年比で11%と大きく、よい傾向だと歓迎されています。ただしその理由をよくわかっていません。結果的に性的にそう積極的ではなく、避妊手段をとっているということなのかもしれません。

ちなみに世界各国で見ると米国は万年1位で、2位のロシアは30.5人（2008年）、3位の英国は26.7人（2004年）。日本は09年調べで同5.0人ですので、まだ一般に社会問題化しているとは捉えられていないのでしょうか。

すでに本誌2013年3月号でも説明しましたが、米国では「結婚するまでセックスするな」と禁欲のみを説く性教育（abstinence-only education）と、きちんと避妊方法まで教える包括的性教育（comprehensive sex education）のどちらが有効かをめぐってずっと議論が続いています。禁欲教育は1996年、ブッシュ時代に本格的になり、そのための連邦政府補助金も増えました。しかし実際には禁欲教育は包括的性教育より効果がないと指摘する研究が相次ぎ、禁欲教育から手を引く州政府も増える一方、オバマ政権も補助金を減らして方向転換を図っている最中です。

いずれにしても10代の妊娠は特に大都市圏で大きな社会問題で、ニューヨーク市では今年3月から



写真1

バスの停留所や地下鉄の駅で泣き顔・不安顔の幼児の写るポスターを掲示し（写真1）、10代の親予備軍に向けて「パパ、ボクをこれから20年養ってくれる?」「10代で妊娠したママのもとではボクが高校を卒業できる確率は半分しかない」「高校を出てから仕事を持ち結婚し子供を産んだ

ほうが98%の確率で貧困にはならない」「仕事ある? アタシは毎年数1000ドルかかるのよ」と子供のセリフで訴えています。

さらにシカゴでは5月からショッキングな手法のビルボードを採用しました。妊娠している十代の男の子たち（もちろんフォトショップ加工です）が大写しになっているのです（写真2）。

まずはアイキャッチ効果なのでしょうが、同時に妊娠は女の子だけの問題ではなく、男の子たちの問題でもあるという意識を徹底しようという狙いでしょう。コピーは「UNEXPECTED（予想外）?」そしてサブコピーに「十代の妊娠はだいたいそういうもの。考えなしの妊娠と性感染症を避けよう。コンドームを使うこと。あるいは待つこと」

この広告キャンペーンに対し早速トランスジェンダーの子たちが揶揄されているようだという批判が起きるのも米国らしいですが、一方で、まさに考えるべきはこういうジェンダー概念の固定化から自由な訴えだという賞賛が起きるのもまた米国らしい。

さて翻って日本ではどうなのでしょう。もちろん10代の妊娠の問題が米国ほど深刻ではないにしても、はたしてそこに男性ジェンダーへの厳しい責任付与は行われているのでしょうか?



写真2

「ありのままのわたしを生きる」ために



第27回

ふたりでみつけた結論

土肥いつき

京都の公立高校教員。24 時間一人パレード状態の MtF トランスジェンダー。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

ある日の会話。「センセ、昔はやんちゃやったんちゃうん」「いや、おとなしかったで」「そんなことないやろ。ギャル！　みたいな感じで」。どうやらこの子にとって、今に至るわたしの過去はギャルのようです。

閑話休題。

岡山病院に行くことを決めたちょうどその頃、ある日わたしは、ふと「ヒゲ、抜いてみようかな」と考えました。ネットに書いてあったとおり、蒸しタオルで肌をふやかして、毛抜きでヒゲを引っ張ると、意外なほど簡単に抜けました。痛みもそんなにはありません。何本か抜いているうちに、ヒゲの生え方に逆らわずに抜くと失敗しないこともわかってきました。いつの間にか、ヒゲを抜くのが日課になっていきました。

それまでのわたしにとって、ヒゲは剃るものでした。「抜いたほうがトランスしやすい」ということは知っていましたが、なんとなく痛そうなのと、時間がかかりそうなので避けていたのです。その代わり、できるだけ深く剃れるひげ剃りを使っていました。深く剃れば剃るほど、皮膚が傷みます。しかし、たとえ皮膚が傷んでも、ヒゲははえてきます。皮膚が治っていなくても、やはり翌日には剃らなければなりません。やがて、鼻の下の皮膚はひどく荒れて、ヒゲを剃るたびに血が滲むようになっていました。そんな状態でも、スカートを履くときはヒゲの剃り跡を隠さなくてはなりません。荒れた皮膚の上にスポットファンデーションを叩き込んでお化粧をしていました。そんなわたしを見かねてか、Jさんは「脱毛したら」と言ってくれました。しかし、「お金がないし」などと言いながら、逆にわたしが渋っていました。実はそれよりも、わたしにとっては、女性ホルモンの投与をしたいという思いが膨らんでいたのです。

5月になり、2回目の岡山病院の通院日が迫って来ました。わたしはJさんに一緒に行かないかと誘いました。しかし、Jさんは、女性ホルモンの許可を得るためだと察知したのでしょうか、「医者はんたの味方や」と、わたしの誘いを断りました。結局5月の診察

は、前回の「宿題」を果たせないままに行くことになり、6月の受診に持ち越すことになりました。

ところが6月のある日、体調を崩したJさんは近くの病院に行き、そのまま入院することになりました。肺炎でした。

日ごとにKの心は、どんどん離れていく。「私のK君を返してよ!」という叫びは、そんな日々から出てきた言葉である。寂しくて悲しくて心配で、私は眠るのをやめた。謙一郎が帰ってくるまで眠るのをやめたのだ。私は、すぐに病気になり、入院した。

わたしの生活は一変しました。当時、ふたりの子どもは小学4年生と保育園児。毎朝子どもたちを送り出し、仕事を終えたらJさんの見舞いに行き、少し会話を交わして、その後子どもたちを迎えに行って、晩ごはんをつくるという生活になりました。でも、そんな生活はしんどくはあったものの、それなりに楽しくもありました。約1か月後、Jさんは退院してきました。

7月、Jさんは3回目の岡山病院の通院に一緒に行くことに同意してくれました。ふたりで新幹線に乗るのははじめてで、少しウキウキしながらの通院でした。しかし、診察室では「ホルモンをしたい」というわたしに対して、「トランスはしかたないけど、ホルモンをしてせつかくの恵まれた健康な身体を壊してしまうようなことはしてほしくない」というJさんとの間で膠着状態が続きました。そんなわたしたちに、中島さんは「いまのおふたりに必要なことは、『時間をかせぐ』ことですね。航海図のようなものを想定して、今自分たちがどこにいるのかを常に確認しながら進んでみて下さい。危なくなったら、いつでも相談に来て下さい」という提案をされました。

帰りの新幹線は、軽い失望と、「それは当然」という軽いあきらめが混じりあった気持ちでした。それでも、「徐々にではあっても変化したい」というわたしの思いとJさんの思いの妥協点として「とりあえず脱毛をする」という落ち着きどころを見つけました。数か月かけて、ようやくふたりで出した結論でした。

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

科学が可能にする想像力

「科学者」を名乗る人が著した、「男女の性差は脳の〇〇に起因する!」とか「同性愛の原因はこれだ!!」などと解説した一般書が好きではない。それらは大抵、自らその研究に携わってもない「研究者」、もとい「輸入エージェント」によって、海外の論文から都合のよい部分だけがつぎはぎされたものだ。実際は「一つの実験結果によって、このような見方も成り立つ」というくらいの不確かな情報にすぎないのに、そうした「科学」を鵜呑みにして、どれだけの「偏見」が生まれたことだろう。

というわけで、「科学」とか「脳」とかいう売りの文句を見ただけで眉唾な気分になってしまう筆者ではあるが、本書『脳はこんなに悩ましい』には、誠実な印象を受けた。それは、巻末にネタ元（参照した論文）が明記されている配慮にもよるし、インタビュアーの中村うさぎが鋭いつっこみや自分の解釈を差し挟むことで、不確実な知見が相対化されているからだだろう。そしてなにより、池谷が単純な自然科学決定論者ではないことが大きい。

例えば、池谷は男女の思考の違いについて、こう語る。「…まったく新しいアイデアをひらめくのは女性のほうが得意だと言われているんですよ。……男性の思考は単純でストレートだから、明快な社会のルールやスキームをつくりやすいのかもしれないね」。けれども、そう発言した後で留保を付け加えるのも忘れない。「ただ、あえてここで、再び強調しておきたいことは、現段階までの研究によれば、脳の性差はそんなに大きくないですよ、ということです」

80年代を席卷したフェミニズム以降、性差に関して言及することが政治的な問題になりかねないことが、自然科学の領域でもある程度、前提となっているのだろう。そのような時代に研究者として出発しているはずの池谷は、すでにジェンダー論からの自然科学



脳はこんなに悩ましい

池谷裕二・中村うさぎ
新潮社
1,365 円（税込み）

批判は織り込み済みに違いない。その上で、「脳の性差は、だから、日常的には微細な差でしかない。それなのに、脳はその『差分検出器』という性質上、『同じ』よりも『違う』に目が行きがちです。だから、男女が目立って見えるんでしょうね」などと、性差を強調してしまう人間の思考そのものへ、科学的な推理を重ねてみせる。このへん、とても芸が細かい。

本書には、性にまつわる事柄ばかりでなく、脳を中心とした科学全般に関する興味深い研究結果が、これでもかというくらい俎上に上げられる。龍安寺の庭園を例に、脳の指向と美の関係について語られたり、ブラシーボ効果における物質世界と精神世界の接点が考察されたり、男性の人差し指と薬指の長さの比率から勃起時の長さの予測ができる(!)という研究が紹介されたり、味覚と社会倫理の結びつきが想像されたり……。他にも、ゲノム解読によって、現生人類(ヒト)とネアンデルタール人が交雑していたことが証明された結果、両種の間に生まれた(ハーフの)子供が、現生人類によって積極的に排除されなかった“寛容の歴史”までが、鋭く推論される。

さらに、池谷と中村の対談がユニークなのは、それぞれがゲノム解析の被験者となって、将来生じるかもしれない病気や、自身の気質について調べてみるあたりだろう。

「うさぎさんのお母さんの先祖は……遺伝子の一致率が最も高い地域は、なんと、チリやアルゼンチン、ボリビア、ブラジル、ペルー、エクアドル、つまり南米です。……ベーリング海峡を渡った一族です」。遙か太古の祖先の足跡すらたどることができるようになった科学の進歩に、読者は瞠目せずにはおれない。

そして、「私とは何か?」という問いを、自らを実験台にするがごとく探求してきた作家、中村うさぎが、海を渡った「冒険心にあふれる先祖と血を分けて」いたという事実! 読者は科学が可能にする想像力の広大さに、ただ圧倒されるはずだ。(作家 伏見憲明)

全国性教育研究団体連絡協議会



8月8日(木) 12:30～16:30

8月9日(金) 9:00～16:30



第43回 全国性教育研究大会

第21回 近畿・北陸・東海地区性教育研究大会

テーマ 『主体的にいきることから 生き方を考える』

～いのちをはぐくみ 人との絆を築くために～

内 容

- 1日目**：13:00～13:30 **開会行事** 挨拶・祝辞・次期開催地紹介
 13:35～14:05 **開催地報告** 「奈良県性教育研究会の实践」奈良県性教育研究会
 14:10～14:50 **基調講演** 「学校における性に関する指導について」城戸 茂（文部科学省国立教育政策研究所特別活動調査官）
 15:00～16:30 **記念講演** 「万葉びとの生と性」上野 誠（奈良大学教授）
- 2日目**：9:30～12:00 **分科会** 「小学校における性教育の实践」「中学校における性教育の实践」「高等学校における性教育の实践」「青少年の性教育の实践」「性とメディアリテラシー」
 13:30～15:00 **課題別講義** 「トランスジェンダー生徒交流会からの発信」土肥いつき（京都府立高等学校教員）、「女性専用外来から見た性の課題と対応について」島本郁子（奈良県立医科大学附属病院臨床教授）、「ライフスキル形成を基礎とする性教育の理論と実践」川畑徹朗（神戸大学大学院教授）、「学校の教育活動全体を通して行う性教育」堀内比佐子（全国性教育研究団体連絡協議会監事）
 13:30～15:00 **参加型講義** 「医療職サイドとして、性と生を考える」中谷里子（奈良県助産師会ハートポケット助産師）
 15:10～16:40 **報告** 「青少年の避妊に関する意識と行動の変化（第7回『青少年の性行動全国調査』より）」土田陽子（大阪府立大学 非常勤講師）
 15:10～16:40 **実践発表** 「特別支援教育の視点で行う通常学級における性教育」「中学校における実践『異性の友人との関わり』」「高校生に対する子宮頸がんの予防教育の実践」

会 場 奈良 公立学校共済組合「春日野荘」（奈良市法蓮町 757-2）

定員・参加費・問い合わせ

参加費／一般 6,000 円、学生 4,000 円、1 日参加：一般 3,000 円、学生 2,000 円。定員／300 名。

主 催／全国性教育研究団体連絡協議会、近畿・北陸・東海地区性教育研究団体連絡協議会、奈良県性教育研究会。

協 賛／日本性教育協会。後 援／内閣府、文部科学省、厚生労働省ほか。

申込み・連絡先／〒634-0007 奈良県橿原市葛本町 625 橿原市立耳成小学校 養護教諭・大杉 好

TEL 0744-22-2265 FAX 0744-22-9642

締 切／平成 25 年 7 月 3 日

7/5 (金)
7/7 (日)

日本家族計画協会 第9回「ピアカウンセラー 養成者」養成セミナー（前期）

【プログラム】前期：ベーシックコース

※後期：スキルアップコースは 11/23(土)～/24(日) 開催

1日目：健やか親子 21 の現状と課題、エンカウンター体験、構成的グループエンカウンター総論、エンカウンター演習Ⅰ・Ⅱ、ほか。2日目：ピアカウンセリング基本概念、ピアカウンセリング8つの誓約、ほか。3日目：エンカウンター実習、試験、ほか。

【会場】保健会館新館 多目的ホール（東京都新宿区市谷田町1-10）

【主催・問い合わせ先等】

参加費／前期 75,600 円（税込み）、後期 46,200 円（税込み）。定員／18 名。

対象／心身ともに健康で、本セミナー受講後、関連領域ピアカウンセラーを養成することができる者、または今後養成を検討している者で、以下の(A)(B)(C)のいずれかに該当する者。

- (A) 思春期保健相談士又は当該分野に関する研修会、セミナー等を修了した者。
- (B) 教育機関等で、セクシュアリティ又は当該分野に関して、教授、研究している者。
- (C) 思春期又は当該分野で対象となる人々について理解し、これまで支援活動などの実践活動を行っている者。

問合せ先／〒 162-0843 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館

(社) 日本家族計画協会 研修課 TEL 03-3269-4785 FAX 03-3267-2658

7月27日(土)
7月28日(日)

“人間と性”教育研究協議会 第32回全国夏期セミナー 近畿大会 in 京都

テーマ 「いまこそ科学として学ぶ“いのち・からだ・性”～孤立化する社会の中で一人ひとりの人権をまもる」

内容 1日目：基調報告、講演、講座「『男子の性』はいまこれからの性教育の中心課題の一つ」村瀬幸浩（“人間と性”教育研究協議会）、ほか。2日目：模擬授業、テーマ別分科会「すぐに使える思春期の本音を引き出す性教育」「二次性徴と人の誕生を結ぶ」「知って！解って！LGBTのこと」「教育実習生が学校を変える」「学校全体でとりくむための指導計画」、ほか。

会場 京都教育大学 藤森学舎
（京都市伏見区深草藤森町1番地）

主催・問い合わせ等

一般社団法人“人間と性”教育研究協議会

TEL 03-3379-7556 FAX 03-3379-7561

8/31 (土)
9/1 (日)

第32回日本思春期学会総会・学術集会 「思春期の子どもたちを取りまく環境と健康」

【内容】理事長講演「国際的な視点から見た思春期の健康政策」林謙治（国立保健医療科学院）、会長講演「子どもたちを取り巻く環境変化と思春期発育」宮下和久（和歌山県立医科大学）、教育講演「思春期のライフスタイルと健康」大関武彦（浜松医科大学）、「思春期の移行支援」小野善郎（和歌山県精神保健福祉センター）、シンポジウム「Ⅰ 子ども達を取り巻くIT環境の落とし穴ーネット、携帯依存」「Ⅱ 性教育のあり方ー地域と学校のギャップ」「Ⅲ ピアの想いは国境を越えて～若者の未来づくりのために」「Ⅳ ライフステージと妊娠・出産～思春期から伝えておきたい女性の健康～」基調講演「ライフステージと妊娠・出産～思春期から伝えておきたい女性の健康～」北村邦夫（一般社団法人日本家族計画協会）、「望まない妊娠～若年妊娠のリスクと課題～」水主川純（聖マリアンナ医科大学）、「増えている高年出産～妊娠・出産には限界があることを知ろう～」種部恭子（女性クリニックWe! TOYAMA）、パネルディスカッション、特別企画、ランチョンセミナー、ほか。

【会場】ホテル・アパローム紀の国 2階大会議室「鳳凰の間」3階「孔雀の間」ほか（和歌山市湊通丁北2-1-2）

【問い合わせ先等】

参加費／当日申込 10,000 円、事前申込 8,000 円、学生 5,000 円（当日受付のみ、要学生証提示）、抄録集 1 部 3,000 円、懇親会 5,000 円。

問合せ先／〒 641-8509 和歌山市紀三井寺 811-1 和歌山県立医科大学医学部衛生学教室内

第32回日本思春期学会総会・学術集会事務局（担当：南出）

TEL & FAX 073-441-0646 E-mail jsa2013@wakayama-med.ac.jp

「若者の性」 白書

緊急発売!!

8月1日(木)予定

本体2,200円＋税

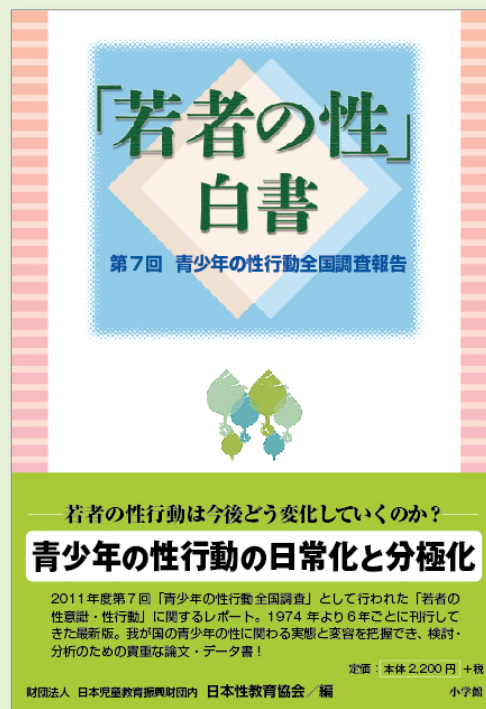
●A5判256P

第7回 青少年の性行動全国調査報告

2011年度第7回「青少年の性行動全国調査」として行われた「若者の性意識・性行動」に関するレポート。1974年より6年ごとに刊行してきた最新版。我が国の青少年の性に関わる実態と変容を把握でき、検討・分析のための貴重な論文・データ書！

◆ 主な内容 ◆

- 序 章 第7回「青少年の性行動全国調査」の概要
- 第1章 青少年の性行動の低年齢化・分極化と性に対する新たな態度
- 第2章 欲望の時代からリスクの時代へ
—性の自己決定をめぐるパラドクス—
- 第3章 青少年の家庭環境と性行動
—家族危機は青少年の性行動を促進するのか—
- 第4章 消極化する高校生・大学生の性行動と結婚意識
- 第5章 青少年にみるカップル関係のイニシアチブと規範意識
- 第6章 高校生・大学生の避妊に関する意識と行動
—避妊行動の分化に着目して—
- 第7章 現代日本の若者の性的被害と恋人からの暴力
- 第8章 自慰経験による女子学生の分化
- 第9章 性情報源として学校の果たす役割
—性知識の伝達という観点から—
- 付表Ⅰ 「青少年の性に関する調査」調査票
- 付表Ⅱ 基礎集計表（学校種別・男女別）



編／財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会 発行／小学館

全国の書店にて、ご予約・ご購入ができます！